

特別展

快慶

日本人を魅了した
仏のかたち



2017年春、慶派誕生の地で
巧匠仏師祈りの快作、一堂集結。

平成29年

4月8日 土

6月4日 日



主催／奈良国立博物館 読売新聞社 読売テレビ

重要文化財 四天王立像 広目天(和歌山・金剛峯寺)

奈良国立博物館
NARA NATIONAL MUSEUM

文化力
POWER OF CULTURE

Special Exhibition **KAIKEI** The Great Master of Buddhist Sculpture

特別展

快慶

日本人を魅了した仏のかたち

快慶は、わが国を代表する仏師のひとりであり、鎌倉彫刻様式の完成に重要な役割を果たした人物として運慶と並び称されてきました。快慶には確認される遺品が際立って多く、鎌倉時代初期の造像界の動向を具体的に知るうえで不可欠な存在である一方、出自や工房など、その人物像には不明な点が少なくありません。

建久三年(一一九二)に無位でありながら後白河院追善の造像に抜擢されるなど、康慶の弟子のなかでも特殊な立場にあったようですが、このうち運慶に伍して活躍の舞台を得る画期となったのは、後白河院主導のもと俊乗房重源により進められた東大寺再興造像でした。快慶は「巧匠(クウシヤウ)阿弥陀仏」と称されたことからわかるように、単に仏師として重源にしたがっていたのではなく、熱心な阿弥陀信仰者として造仏に臨んでいたことも見逃せません。彼が生涯を

かけて追求した実在感と格調の高さを兼ねそなえた阿弥陀如来立像の姿は、後世「安阿弥様」と称され、来迎形阿弥陀の一典型としてながく受け継がれてゆきます。平安時代には、仏師定朝が「仏の本様」と謳われる理想的な仏の姿をつくり出しましたが、快慶はこの定朝にも匹敵する役割を果たしたといえるでしょう。

本展は、快慶の代表的な作品を一堂に集めて、わが国の仏教美術史上に残した偉大な足跡をたどる試みです。さらに、快慶作品の成立と密接に関わる絵画や、高僧たちとの交渉を伝える資料をあわせて展示することにより、いまだ多くの謎に包まれた快慶の実像に迫ります。本展を通じて、多彩な快慶作品の魅力を堪能していただくとともに、現代を生きる我々の共感をいまもお呼び起こし、仏の規範とされつづける快慶芸術の本質について考える機会となれば幸いです。



重要文化財
阿弥陀如来立像(奈良・東大寺)



重要文化財
阿弥陀如来立像(奈良・西方院)



重要文化財
不動明王坐像
(京都・正寿院)



重要文化財
大白如来坐像
(滋賀・石山寺)



地蔵菩薩坐像
(京都・如意寺)

【休館日】毎週月曜日 ※ただし、5月1日(月)は開館

【開館時間】9時30分～17時(入館は閉館30分前まで) ※臨時に定める場合があります。

 奈良国立博物館
NARA NATIONAL MUSEUM

〒630-8213 奈良市登大路町50(奈良公園内)
ハローダイヤル 050-5542-8600
<http://www.narahaku.go.jp/>



(交通案内) 近鉄奈良駅より徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から市内循環バス(外回り)「水室神社・国立博物館」下車

※本展の観覧券で名品展(なら仏像館・青銅器館)もご覧いただけます。